平成21年度高知県公立学校教員採用候補者選考審査
筆記審査（専門教養）
高等学校　書道
特別支援学校　中学部・高等部　書道

受審番号		氏　　名	

【注意事項】

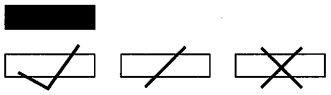
1　審査開始の合図があるまで，この問題冊子の中を見ないでください。

2　解答用紙（マークシート）は２枚あります。切り離さないでください。

3　解答用紙（マークシート）は，２枚それぞれに下記に従って記入してください。

○　記入は，HBの鉛筆を使用し，該当する□の枠からはみ出さないよう丁寧にマークしてください。

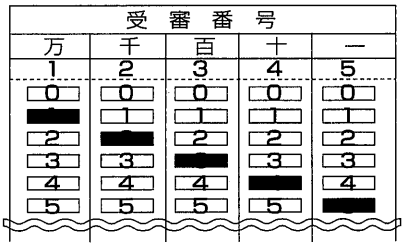
マーク例（良い例）（悪い例）



○　訂正する場合は，消しゴムで完全に消してください。

○　氏名，受審する教科・科目，受審種別，受審番号を，該当する欄に記入してください。

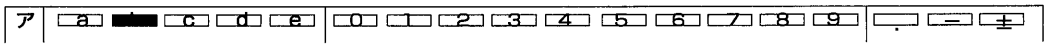
また，併せて，右の例に従って，受審番号をマークしてください。



記入例
（受審番号１２３４５の場合）

4　解答は，解答用紙（マークシート）の解答欄の記号をマークしてください。例えば，解答記号［ア］と表示のある問いに対して b と解答する場合は，下の（例）のように**アの解答欄**の［b］をマークしてください。

（例）



なお，一つの解答記号に対しては，解答欄の記号を二つ以上マークしないでください。

5　筆記審査（専門教養）が終了した後，解答用紙（マークシート）のみ回収します。受審者は，審査室内のすべての解答用紙（マークシート）が回収された後，監督者から指示があれば，この問題冊子を，各自，持ち帰ってください。

第1問　次の1・2の問いに答えなさい。

1　次の(1)～(5)の平仮名、片仮名の字源を、あとのa～eの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

(1)　し　　ア　a 士　b 子　c 氏　d 之　e 史

(2)　へ　　イ　a 平　b 兵　c 部　d 並　e 遍

(3)　ろ　　ウ　a 魯　b 呂　c 路　d 露　e 廬

(4)　ケ　　エ　a 計　b 介　c 化　d 系　e 気

(5)　ス　　オ　a 寸　b 州　c 数　d 素　e 須

2　次の(1)～(5)の書道用語の解説文中の空欄［カ］～［コ］に当てはまる語句として適切なものを、あとのa～eの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

(1)　刻字

木の板などに、自分の書を刻することや、その刻された作品を刻字といい、書の表現の一分野とされている。制作の際には、文字の角が崩れないよう、籠字の線から少し離れたところを荒彫りする［カ］を行うことがある。

a　ひらのみ　b　さらいのみ　c　はつり　d　すてのみ
e　ほんのみ

(2)　用筆

用筆とは起筆・送筆・収筆などの筆の穂先のはたらかせ方のことである。王羲之の十七帖に用いられている［キ］は筆の動きを止めて、点画を切り離して二筆で書く方法で、用筆法の一つである。

a　断筆　b　直筆　c　側筆　d　逆筆　e　導筆

(3)　千字文

文字の習得と書法学習のために作られた四言二百五十句からなる韻文。六朝の梁の［ク］の作とされる。

a　索靖　b　李柏　c　周興嗣　d　蒼頡　e　始皇帝

(4)　金文

殷・周の時代の青銅器上に見られる文字。特に西周の時代に入ると青銅器を製作した事情が詳しく述べられるようになった。文字の大きさや線の太さはふぞろいで、字形は象形性が強く、点画の一部を太く塗りつぶした［ケ］が多く見られる。

a　運筆　b　肥筆　c　補刀　d　波磔　e　蔵鋒

(5)　拓本

拓本は金石に紙を当てて文字や文様を写しとるもので、紙を当てたままこすりとる乾拓法と、紙を水で濡らして貼り付け、そこに油墨を入れてとる［コ］法とがある。とり方の加減や墨色によって趣も異なり、拓本そのものが美的鑑賞の対象となっている。

a　全拓　b　転写　c　模刻　d　石摺　e　湿拓

第2問　次の1・2の問いに答えなさい。

1　次の(1)～(5)の古典と関連が深い人名を、あとのa～eの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

(1)　真草千字文

ア　a　智永　b　懐素　c　陸機　d　王遠　e　賀知章

(2)　松風閣詩巻

イ　a　蘇軾　b　米芾　c　楊凝式　d　黄庭堅　e　蔡襄

(3)　離洛帖

ウ　a　藤原公任　b　藤原敏行　c　藤原佐理　d　藤原定家　e　藤原行成

(4)　日野切

エ　a　本阿弥光悦　b　藤原俊成　c　小野道風　d　紀貫之　e　西行

(5)　楷書前後出師表巻

オ　a　鮮于枢　b　文徵明　c　呉昌碩　d　鍾繇　e　祝允明

2　次の(1)・(2)の古典の解説文中の空欄［カ］～［コ］に当てはまる語句として適切なものを、あとのa～eの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

(1)　洛陽にある［カ］の古陽洞に現存する「始平公造像記」は、僧の慧成が、亡き父始平公のために仏像を造って供養したものである。書体は楷書で角張った力強い書である。書者名である［キ］の名が入っていること、［ク］で刻している点において注目される。

［カ］　a　龍門石窟　b　西安碑林　c　雲峰山　d　会稽山　e　泰山

［キ］　a　董其昌　b　鄭道昭　c　張即之　d　朱義章　e　孫過庭

［ク］　a　陰文　b　欧法　c　顔法　d　陽文　e　金文

(2)　雲南省曲靖県に現存する「爨宝子碑」は二十三歳の若さで亡くなった建寧の太守爨宝子の徳をたたえるため、四〇五年に建てられた。すでに楷書が完成していたとされるこの時代に、隷書のように横画が水平で［ケ］がみられるのは、［コ］という石刻の場合の楷書様式を用いたためと考えられている。

［ケ］　a　向勢　b　波勢　c　背勢　d　方勢　e　円勢

［コ］　a　篆書体　b　古隷　c　銘石体　d　逆入平出　e　箱刻

第3問　次の1～3の問いに答えなさい。

1　次の図版の説明について、空欄［ア］～［オ］に当てはまる語句を、あとのa～eの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

図　版

古代中国では、印の使用目的の大半は封をすることにあった。つまり、文書などの封じ目に［ア］をつめ、その上に印を押して他人に開けられるのを防止したもので、これを［イ］という。図版の書体は［ウ］で、右上の文字は［エ］、右下の文字は［オ］である。なお、現在のように印に朱をつけて押すようになったのは、五世紀以後のことと考えられている。

［ア］　a 墨　b 炭　c 石　d 砂　e 粘土

［イ］　a 封泥　b 古鉢　c 私印　d 鈕　e 印影

［ウ］　a 楷書　b 古隷　c 調和体　d 篆書　e 章草

［エ］　a 雨　b 雲　c 霊　d 喪　e 参

［オ］　a 洲　b 川　c 三　d 山　e 形

2　次の(1)・(2)の解説文中の空欄［カ］～［コ］に当てはまる語句として適切なものを、あとのa～eの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

(1)　書の鑑賞にあたっては、さまざまな書について幅広く関心をもち、鑑賞の拡充、深化を図ることが大切である。その方法には、まず、第一印象によって書のもつ趣を感じ取る［カ］がある。また、造形要素の細部にわたって字形や全体構成などを味わう分析的鑑賞があり、さらに作品の生まれた時代の社会的背景や筆者の個性なども調べて味わう［キ］もある。

［カ］　a 感覚的鑑賞　b 客観的鑑賞　c 古名跡鑑賞　d 直観的鑑賞　e 主体的鑑賞

［キ］　a 文化的鑑賞　b 総合的鑑賞　c 現代的鑑賞　d 社会的鑑賞　e 歴史的鑑賞

(2) 書は、その鑑賞や保管がしやすいように表装が施されている。［ク］のもっとも基本的な形式は、巻いて保管する手巻、折りたたんだり重ねたりする［ケ］、壁面などに飾ることのできる［コ］の三種である。

［ク］ a 扇面　b 表具　c 屏風　d 仮巻き　e 折帖

［ケ］ a 冊頁　b 綴り　c 懐紙　d 抄帖　e 紙挟み

［コ］ a 冊子　b 柱　c 裏打ち　d 巻子　e 軸

3 次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 文中の空欄［サ］～［セ］に当てはまる語句として適切なものを、あとのa～eの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

行書は、楷書を少しくずしてできた書体と思われがちだが、その成立は楷書より早く、［サ］をやや速く簡略に書く中から芽生えた書体である。また、日常生活に最も多く使われる書体である。速く書くことができ、しかも読みやすいという特徴があり、その書体は楷書に近いものから［シ］に近いものまで幅広くある。楷書に比べ、運筆の緩急、［ス］などがはっきりし、［セ］もわかりやすい。このことから流れが生まれ、文字と文字のまとまりや動きなども生じる。

［サ］ a 木簡　b 草書　c 隷書　d 篆書　e 小篆書

［シ］ a 草書　b 篆書　c 刻字　d 万葉仮名　e 草仮名

［ス］ a 直筆　b 浮沈　c 独草体　d 墨継ぎ　e 抑揚

［セ］ a 筆洗　b 筆路　c 筆巻き　d 筆管　e 筆圧

(2) 文中の空欄［ソ］に当てはまる語句として適切なものを、あとのa～eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

「蘭亭序」は、古来行書の手本として最も高く評価されてきたが、現在伝えられているものはすべて［ソ］されたものと拓本である。それらの中でも「神龍半印本」と呼ばれるものは、収蔵者や鑑賞者の押した印が随所にあり、代々名品として受け継がれてきたことが分かる。

a 烏金拓　b 印刷　c 臨模　d 蝉翼拓　e 真跡

第4問　次の文は、口伝により授けられた書道の秘伝をまとめたものの一部である。文を読んで、あとの1～5の問いに答えなさい。なお、一部の漢字は、新字体に改めている。

一　文字は一字一字取り放ち見る、①各うつくしく見える様に書くべきなり。すなはち重なる文字は高（く）あるべきなり、並ぶ文字は横広（く）あるべきなり。

一　②未練の間は文字を高く書くべきなり、究竟になる時は、少し文字は平（か）に成ることなり。されば道風などの書きたるもの、若き時の手は文字高きなり。究竟に至りて後は、ひらみて見ゆるなり。

一　先づ物を書くには、静かなる所にて、心をしづめて書くべきなり。物をいそがしく書くことなかれ。いそがしく書きたるは、いたらぬ故という人あるべし。これは故実をしらぬ人なり。何事も思はでするとは、麁相にするとは替ることなり。ことさら手は、（　A　）③四つ物相叶ひて成るべきなり。このことは今の案にあらず。本文にあり。第一率爾の時は誤事多し。また文字落とすこと一定あることなり。

一　④懶からん時、物書くことなかれ。文字あやしきのみならず、左様にしつけつれば、手あしくなるなり。

（藤原教長『才葉抄』より）

1　傍線部①に「各うつくしく見える様に書くべきなり」とあるが、どのように書くとよいと述べているか。適切なものを、次のa～eの中から一つ選び、記号で答えなさい。　ア

a　文字の大きさによって字間を広くしたり狭くしたりして書く。
b　漢字は縦長に書く、仮名は幅広に書く。
c　横画が多い文字は縦長に、縦画が多い文字は幅広に書く。
d　冠と脚からなる文字は縦長に、偏と旁からなる文字は幅広に書く。
e　条幅に書く時は文字が重なるように、扁額に書く時は文字が横にひろがるように書く。

2　傍線部②の「未練」の説明として適切なものを、次のa～eの中から一つ選び、記号で答えなさい。　イ

a　気がかりなことがあって集中しないこと
b　練習に身が入らないこと
c　技能が十分でないこと
d　手紙に書く適切な言葉が選べないこと
e　新しい筆に慣れないこと

3　空欄（　A　）に当てはまるものとして適切なものを、次のa～eの中から一つ選び、記号で答えなさい。［ウ］

a　万葉仮名　草仮名　女手　男手
b　硯　筆　紙　墨
c　横画　縦画　点画　転折
d　心　技　体　徳
e　姿勢　執筆　筆　墨

4　傍線部③の「率爾」と同じ意味をもつ語を、次のa～eの中から一つ選び、記号で答えなさい。［エ］

a　軽率　b　率直　c　率先　d　軽重　e　爾後

5　傍線部④に「懶からん時、物書くことなかれ。」とあるが、その理由として適切なものを、次のa～eの中から一つ選び、記号で答えなさい。［オ］

a　気持ちが進まない時に書いたものは、本来の技量とはいえないから
b　そのときに取り組んでいた古典の特徴を誤って身につけてしまうことになるから
c　字形が整わないだけでなく、紙や墨などの用具も無駄にしてしまうから
d　自分の気持ちに反して書いたものは、その出来映えをかえって肯定的にとらえてしまうから
e　筆跡が乱れるだけでなく、そのように習慣づけてしまうと、書が下手になってしまうから

第5問　次のⅠ・Ⅱの漢文を読み、あとの1～5の問いに答えなさい。なお、一部の漢字は、新字体に改めている。

Ⅰ　臨模用工①。是學書大要。然必先求古人意指②、次究用筆、後像形体。唐太宗云、吾臨古人之書、殊不學其形似。務在求其気骨。而形勢自生。顔魯公、問裴儆、足下師張長史、有何所得。曰、惟言、倍加工學臨寫法書、當自悟耳。孫虔禮云、蓋有學而不能、未有不學而能者也③。

Ⅱ　學書未有不従規矩而入④。亦未有不従規矩而出。及乎書道既成、則畫沙・印泥、従心所欲、無往不通。所謂因筌得魚、得魚忘筌。

（朱履貞『書学捷要』より）

1　傍線部①の「工」の説明として適切なものを、次のa～eの中から一つ選び、記号で答えなさい。［ア］

a　師匠　b　古硯　c　技法　d　用具　e　古典

2　傍線部②「意指」とあるが、漢文中で同じ意味に使われている言葉を、次のa～eの中から一つ選び、記号で答えなさい。［イ］

a　用筆　b　形体　c　形似　d　気骨　e　形勢

3　「臨模」する上では、どのような順序で進めるとよいと示されているか。次のa～eの中から一つ選び、記号で答えなさい。［ウ］

a　用筆を究める　→　古人の心を求める　→　形体をまねる
b　古人の心を求める　→　用筆を究める　→　形体をまねる
c　用筆を究める　→　形体をまねる　→　古人の心を求める
d　形体をまねる　→　古人の心を求める　→　用筆を究める
e　古人の心を求める　→　形体をまねる　→　用筆を究める

4　傍線部③の「蓋有學而不能、未有不學而能者也」の内容として適切なものを、次のa～eの中から一つ選び、記号で答えなさい。［エ］

a　その都度ただ古典をまねて書くだけでは、学んだことが身に付かない。
b　すぐれた古人の書を学ぶことができなければ、上達することはできない。
c　学んだ成果が感じられないからといって、学ぶことをやめてはいけない。
d　学んでも学び終えるということがなく、結局は学び続けることが肝要である。
e　学んでも上達できないものがいるが、学ばないで上達できたものはいない。

5　傍線部④の「學書未有不従規矩而入。亦未有不従規矩而出」の内容が理想とする状態として適切なものを、次のａ～ｅの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

オ

ａ　繰り返しの学書を疎まずに取り組む状態
ｂ　書の多くの古典を学び、臨書に取り組む状態
ｃ　書法の理を究め、意のままに筆がついてくる状態
ｄ　古人の筆跡を十分に理解し、臨書の技術を身につけた状態
ｅ　自分に適した古典を選び、臨書を進めていく状態

第6問　次の文は平成十一年三月告示の高等学校学習指導要領における科目「書道Ⅲ」の内容について書かれた文である。空欄［ア］～［オ］に当てはまる語句として適切なものを、あとのa～eの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

書道Ⅲは書道Ⅱでねらいとした［ア］や［イ］を生涯にわたって尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな［ウ］を高めることを目指している。書道Ⅲでは、［エ］、地域や学校の実態を考慮して「漢字仮名交じりの書」「漢字の書」「仮名の書」「鑑賞」のいずれかを選択して扱い、目的に応じて臨書または［オ］のいずれかを重点的に指導することができるようになっている。

［ア］
a　書の技能　b　書を愛好する心情　c　書に親しむ態度
d　表現や鑑賞の能力　e　書の歴史

［イ］
a　書の学習　b　書の芸術性　c　漢字と仮名の調和
d　書の目的　e　書の文化や伝統

［ウ］
a　書の世界観　b　書の臨書　c　書の能力　d　書の素材
e　書の思想

［エ］
a　生徒の特性　b　古典の特徴　c　書の多様性
d　思想や文化　e　時数の違い

［オ］
a　表現　b　硬筆　c　鑑賞　d　創作　e　篆刻

高等学校　書道　／　特別支援学校　高等部　書道

		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
第1問	正答	d	c	b	b	e	d	a	c	b	e															
	配点	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2															
	備考																									

		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
第2問	正答	a	d	c	b	e	a	d	d	b	c															
	配点	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2															
	備考																									

		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
第3問	正答	e	a	d	e	b	d	b	b	a	e	c	a	e	b	c										
	配点	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2										
	備考																									

		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
第4問	正答	d	c	b	a	e																				
	配点	2	2	2	2	2																				
	備考																									

		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
第5問	正答	c	d	b	e	c																				
	配点	2	2	2	2	2																				
	備考																									

		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
第6問	正答	b	e	c	a	d																				
	配点	2	2	2	2	2																				
	備考																									